

七年前、私が仕事に子育てに、パワフルに働いていたある日、うつぶせで寝ている、異変を感じ、ある番組を見て、やばいと感じて病院を訪れた。自分では乳腺症だと思っていたが、医師は乳がんだとすぐ右の胸を摘出しなければ、命が危ないと言われセカンドオピニオンする時間もなく手術を受けた。右胸を摘出してCMFの化学療法を6クールとホルモン剤を併用した。4年間2ヶ月に一度のマンモグラフィとCTと骨シンチを繰り返した。あまりいい顔をしたがんではないが、医者も良かったといってくれ、仕事にも短期パートで復帰できた。乳がんに関わることが何だと思っていたが、うそのように4年は過ぎていった。

しかし、右胸に痛みを感じるようになり、エコーは大丈夫だったが、腫瘍マーカーが上がり、CTをしたら、やはり再発であった。あんなにいつもエコーやらCTをしていたのに何でなのか。それに自分でみつけてしまい、主治医がだんだん信じられず、リニアックのドクターに相談したりして一部摘出したが、今度は取ってもマーカー値が下がらず、ホルモンもマイナスで、ハーツーはプラス3のため、タキソールとハーセプチンに切り替えた。最初は主治医も一年は抗がん剤を続けなくてはいけないと言っていた。Vポートもすすめるようになり、また不信がつので、院長へセカンドで聞いたら、ハーセプチンはずっとであると言われた。病院に自分のデータはあるし、家から近いし、かわるのも嫌だったため、主治医を変更してもらった。

鎖骨に転移したので、タキソールと放射線をした。鎖骨は消えたが、マイクロでがんは飛ぶのでタキソールは続けなくてはと言われた。足のしびれや指のしびれがひどくなった。今度のドクターは前の主治医と違い、血液検査はほとんど無く、同じ病院でも何でこんなにも、他の検査の頻度もちがうのか、など悩むようになり、セカンドオピニオンをすすめてくれる乳がん患者の友達もおり、思い切ってセカンドオピニオンへ行って、診療情報提供書を見て愕然とした。EC処方は何故初回にやってくれなかったのかと思っていたが、そこには本人が髪が抜けるのが嫌だからと書いてあって、いろいろ現実がみえてきた。

でも乳がんになって、友達にも乳がん患者がいたことで、ショックも少なく、いろんな面で家族の大切さや、今までの肥満や飲酒を改善しなくてはいけないこともわかった。

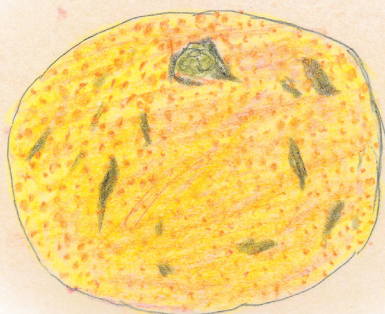
セカンドオピニオンに行ったドクターは大変やさしく、親身になって、今まで「素人に何が解る。」とか言われるままの治療と違い、情報を教えていただき、わかりやすく、納得いく説明をきき、治療に専念できた。何回かタキソールをして、マー

カーも落ち着きハーセプチンだけの治療で、痺れもましになっていった。何より人の目を見て大丈夫ですよ、乳がん治療は日々進歩しているからと励まされた。その後タイケルブとゼローダに代わり、マーカーも落ち着いてきた。

8ヶ月過ぎてマーカー値が上がって、アバスチンに替えましたが、白血球の下がり方を見て、免疫力もつけて、自分の力を信じて乗り越えて行こうと、看護師さんドクターに支えていただき、感謝して前向きにがんばろうと決めました。

あきらめない。必ず助けてくれる人はいる。乳がんは新しい抗がん剤も認可され易いからと、支えてくれる友達や医療者の方々の力で歩いて行けます。

これからは自分の経験をもとに、乳がん啓発活動にがんばっていこうと、患者の人権やおっぱいを失うまえに気づいてほしいことを伝えていこうと思ってます。



ありがとう

K M

母が癌の告知を受けた時、「先生見つけていただいてありがとう。有り難い。有り難い」と言っていました。傍にいた私はうろたえているのに落ち着きはらって言ったのです。

後で何故そう言ったのか母に聞くと、次のように言いました。嫌なこと、苦しいこと、悲しいことが起こっても歯を食いしばって、「ありがとう」と言うと逆に良いことが起こるんだよ。「ありがとう」という言葉を漢字で書いたら「有り難う」難が有ると書くだろう。何か嫌なことがあった時にこそ、そこで「ありがとう」と言うと不幸の連鎖が断ち切れるんだよ、と……

簡単なようではなかなか実行出来ないことではありますが、少しでも実行できるように心がけています。皆様も苦しいとき、辛いとき、悲しいときにそっと心で呟いてみて下さい。「ありがとう」と……